

小中一貫教育の推進

今日の子どもの状況を見ると、いじめや不登校、問題行動、学習意欲の低下など、様々な課題があります。また、中学校への進学に際し、学習内容や指導方法などの急激な変化に、戸惑いや負担を感じる子どもたちも少なくありません。今までからも、こうした課題解決のために、小学校と中学校とが連携を強くし、継続した指導が重要であると言われてきました。

そこで高島市では、義務教育の9年間を見通し、系統的・継続的な学習指導や生徒指導を行い、子どもの健やかな育ちを支えるために、市内全域で小中一貫教育の推進に取り組んでいます。

高島小中学校では、平成19年度から、小中一貫教育の研究に取り組み、平成22年4月に小中一貫教育校として開校することとしました。



小中一貫教育の意義

平成20年度の文部科学省資料によれば、全国で1,500校以上の学校が、小中一貫教育に取り組んでおり、さらに、横浜市や宇治市などでも計画されているなど、小中一貫教育が学校教育の大きな流れになっていきます。

小中一貫教育に取り組む主な理由として次の三点を考えています。

理由1

小学校高学年から中学校にかけての心理的・身体的に不安定な時期、いわゆる「思春期」における小・中学校の指導方法の違いによる違和感や学習面・生活面での不安を解消し、学校不適応等の発生を防ぐ。

理由2

早熟化が進んでいる今の子どもたちの発達段階や心理状態を考慮し、小・中学校間の滑らかな接続により、義務教育9年間を見通した、継続的な指導により教育効果を高め、学力の定着と生きる力の育成を図る。

理由3

小・中学校の年齢の異なる子どもたちが交流することで、年下へのいたわりの気持ちや、年上の人を尊敬する気持ち、互いを尊重し思いやる気持ちを育てる。また、多くの人と交流することで、今の子どもに不足しがちな、人間関係能力やコミュニケーション能力など社会で必要な力を育てる。

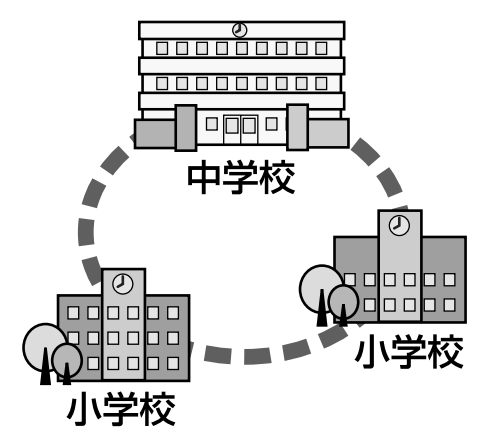
高島市がめざす小中一貫教育

教育委員会では、小中一貫教育の進め方として、次の2つの形態を考えています。

その1「小中一貫教育実践校」

これは、高島地域以外の5つの学区のように、小学校と中学校が離れた場所にある地域では、児童生徒や教職員の交流活動は制限があるため、日常的に行うことはできません。そこで、総合的な学習の時間や各教科、道徳などの学習内容や、学校行事などの特別活動、生徒指導の方針などについて、小中学校間のより強い連

携を進める形態をとります。
本年度から、高島小中学校以外の中学校区で、「小中一貫教育実践校」の研究を開始しました。

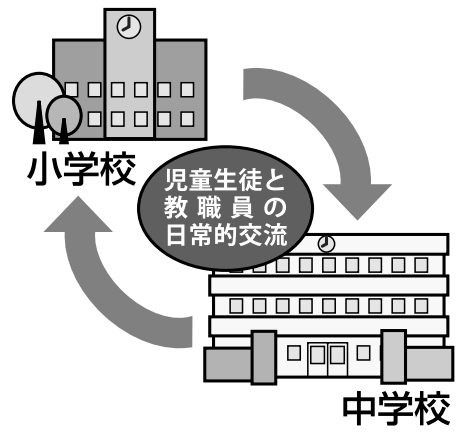


その2「小中一貫教育校」

これは、小学校と中学校が隣接している条件を生かして、教育内容だけでなく、児童生徒の交流活動や教職員の交流授業などを日常的に行ったり、施設の共有を行ったりする学校をいいます。高島小学校と高島中学校が、平成22年度から実施する小中一貫教育はこの形態をとります。

いずれの形態も、9年間の子どもの健やかな成長を支えるための新しい学校のあり方を目指したものです。

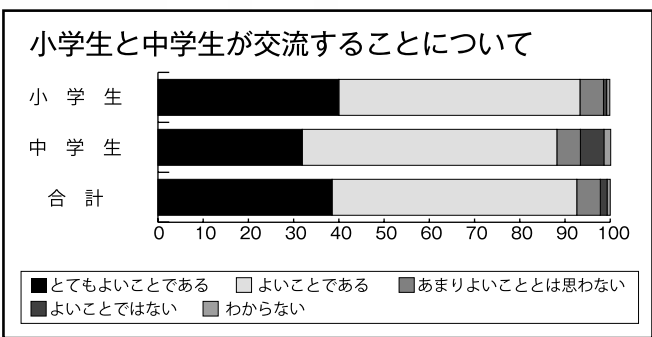
子どもや保護者の意識について



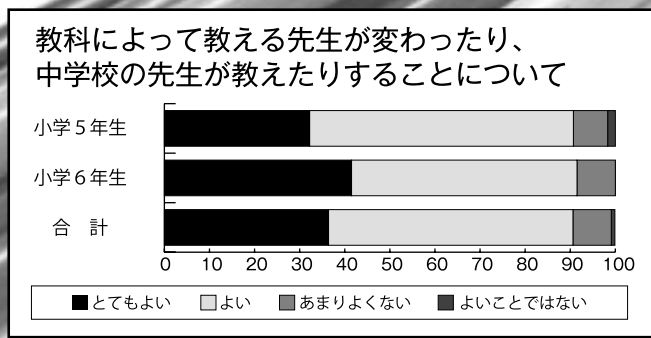
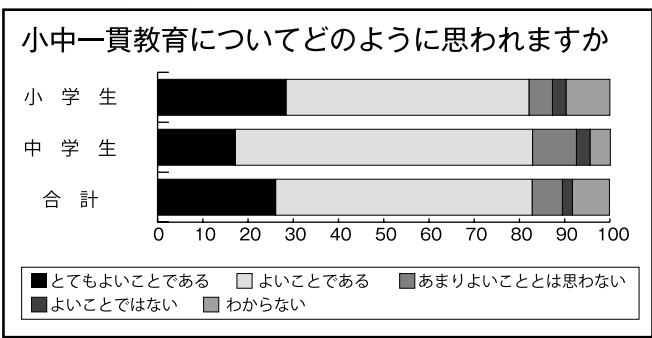
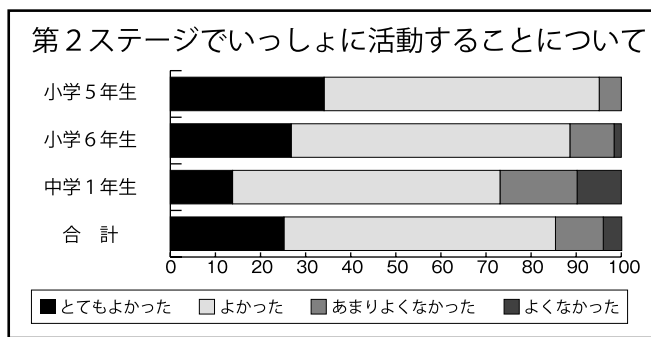
下のグラフは、小中一貫教育の研究をしてきた高島小中学校で行われた、子どもや保護者を対象としたアンケート調査の結果です。

8割を超える子どもたちが、第2ステージ（小学5年～中学1年）で、小学校5・6年生と中学校1年生が一緒に活動することについて、「よかった」と答えています。また、小学校5・6年生の9割を超える子どもが、学級担任以外の先生や中学校の先生に勉強を教えてもらうことを「よかった」と答えています。さらに、保護者は、小中学生が交流したり、小中一貫教育を進めることについて、「よいことである」と答えています。

▼保護者アンケート



▼子どもアンケート



(平成20年12月調査)